

ユーザ／システムビューに基づく マッチングサイトの調査・分析

2015年5月22日(木)
中所武司
明治大学 理工学部 情報科学科
<http://www.chusho.jp/>

1

発表の構成

1. はじめに
2. 基本的アプローチ
3. マッチングドメインのモデル化
★ユーザビューとシステムビューの妥当性の検証
4. ケーススタディのための例題
5. 実装技術の例
6. まとめ

2

＊ ＊ 中略 ＊ ＊

3

3. マッチングドメインのモデル化(3)

3.3 マッチングサービスの例

<「物」に関するマッチング>

- * 不用品再利用サービス: 地方自治体 (Web活用少ない)
民間サイト多数 (女性用衣料品 + スマホアプリなど)

<「サービス」に関するマッチング>

- * ベビーシッター (安全性に問題があるが、結構利用されている)
- * クラウドソーシング: 仕事の受発注
- * 東京ハイヤー・タクシー協会の配車アプリ「スマホ de タックン」
- * 空き部屋仲介サービス: 空室を旅行者に短期貸し出し
- * 災害地復旧支援や高齢者世帯の雪下ろしのボランティア
(地方自治体の、Webサイト活用は遅れている)

4

3. マッチングドメインのモデル化(4)

3.4 マッチングサービスの対象分野の限定

マッチングサイト構築用のフレームワークを開発する場合、
対象範囲を絞らなければ、フレームワーク化部分が限定され、
エンドユーザ主導開発実現の障害となる。

→ マッチングサービスの分析と分類を実施して、対象を限定

- WHO: 提供者／希望者
- WHAT: 物、サービス
- HOW: マッチング決定アルゴリズム



5

＊ ＊ 中略 ＊ ＊

6

3.6 事例によるシステムビューの評価

事例1: 朝日(2015.1.16)

「ボランティア 柔軟な支援態勢を模索」

・広島市北部の住宅街で、74人が犠牲となった土砂災害から10日後の昨年8月末の朝、安佐南区社会福祉協議会の災害ボランティアセンターで受け付けを待つ人で、1千人以上の列ができた。

→(注) 8/30(土曜)昼のNHKニュースで同様の話題あり
「当面、受け入れ態勢が整わず、県内の人のみ受け付ける」

・広島県福山市の会社員男性(25)は、スタッフに「もう仕事はない」と言われたが、現地に行くと、「ネコの手も借りたい」といわれ、すぐ泥かき作業に加わった。

・「なぜ仕事がないと判断したのか不思議でした」と男性は言う。

<続p2>

事例1:

「ボランティア 柔軟な支援態勢を模索」

●8/30(土曜)昼のNHKニュース直後の「ボランティア 広島」検索

・広島市のホームページ:「ボランティア活動の募集について」

・ひろしまNPOセンター:「広島市豪雨災害に関する対応について」
ボランティアの受け入れは、当面広島県在住の方を対象としているため、他地域にお住まいの方は、その他の方法での支援をご検討ください。

・広島市災害ボランティア本部

9:10時点で安佐南区は本日活動予定の人数に達したため、受付を終了したと報告がありました。

・「広島土砂災害のボランティア情報をまとめました」

・「広島土砂災害で、避難者ケアに医師らが連携」

・「広島被災者にタオル贈る 県立大生ら市民から募集」

・「土砂災害 支援タクシー走る」

・「広島復旧支援 土砂運ぶ一輪車20台小浜市建設業会」

<続p3>

事例1:

「ボランティア 柔軟な支援態勢を模索」

・「ボランティア元年」の阪神・淡路大震災から20年。
全国組織がある社協を軸にボランティアを差配する仕組みが定着した。いま、運営の硬直化が問題となりつつある。

「全国社会福祉協議会」とは
都道府県社会福祉協議会の連合会として、
全国段階の社会福祉協議会として設置されています。

「都道府県社会福祉協議会」とは
県域での地域福祉の充実をめざした活動をおこなっています。

<続p4>

事例1:

「ボランティア 柔軟な支援態勢を模索」

「市区町村社会福祉協議会」とは

高齢者や障害者の在宅生活を支援するために、
ホームヘルプサービス(訪問介護)や配食サービスをはじめ、
さまざまな福祉サービスをおこなっています。

地域のボランティアと協力し、高齢者や障害者、子育て中の親子が気軽に集える「サロン活動」を進めているほか、

社協のボランティアセンターでは

ボランティア活動に関する相談や活動先の紹介、

また、小中高校における福祉教育の支援等、

地域の福祉活動の拠点としての役割を果たしています。

<続p5>

事例1:

「ボランティア 柔軟な支援態勢を模索」

■受け入れ制限

・東日本大震災では「態勢が整わない」と受け入れを制限する社協も多かった。

・「高齢者が多い避難所はどこですか」と尋ねると、
ボラセンでは「『個人情報』は教えられません」と言われた。

・避難所に毛布を配れるようになったのは、
5回以上ボラセンに通って信頼を得たからだ。

・米国ではボランティアの全米組織「NVOAD」が行政側と対等に話し合い、
NPO間の調整を担う。

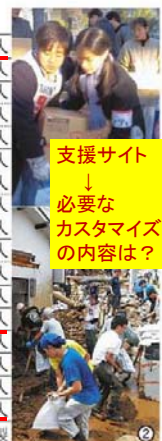
・全国社会福祉協議会の事務局長は「運営をもっと柔軟に、とは考えている。
ただ、『外部からの支援は慎重に』との地元のも理解してほしい」と話す。

・某神戸大名誉教授(都市防災学)は「社協の組織力。NPOの柔軟さ。
両方を生かす仕組みが必要だ」と説く。

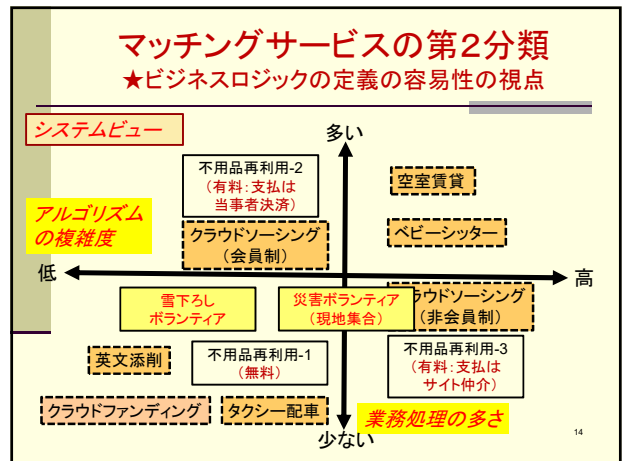
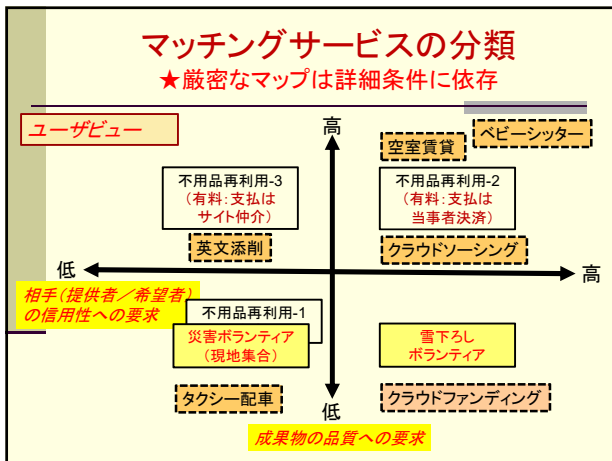
近年の災害とボランティアの人数

1995年1月	阪神大震災①	137.7万人
97年1月	ナホトカ号重油流出事故	27.5万人
2000年3月	北海道・有珠山噴火	0.9万人
9月	東海豪雨	2.0万人
10月	鳥取県西部地震	0.5万人
04年7月	新潟・福島豪雨	4.5万人
	福井豪雨	6.0万人
10月	台風23号	4.4万人
	新潟県中越地震	8.6万人
07年3月	能登半島地震	1.6万人
7月	新潟県中越沖地震	2.8万人
09年8月	台風9号(兵庫県佐用町など)	2.1万人
11年3月	東日本大震災	138.1万人
9月	台風12号(紀伊半島など)	3.1万人
12年7月	九州北部豪雨	4.4万人
13年10月	台風26号(伊豆大島)	0.7万人
14年8月	広島土砂災害②	4.3万人

全国社会福祉協議会や防災白書の統計を基に作製



支援サイト
↓
必要な
カスタマイズ
の内容は？



*** 中略 ***

15